

# 5GHz帯無線LANの開発コストを低減 送信特性評価に1台で対応

OFDM変調方式を採用した最大54Mbpsの通信を可能にする5GHz帯の無線LAN規格IEEE802.11aに対応した製品に市場の期待が集まっている。しかし、開発や品質保証の現場では、多数の測定器を使う煩雑さやコストアップに頭を痛めている。この問題を解決する新たなソリューションがアンリツから発表された。

これまでOFDM変調信号を利用する無線LANの解析には、複雑な操作と専門知識を要する大型で高価な汎用変調解析器などと、スペクトラムアナライザやパワーメータがそれぞれ必要となるため、高性能かつ低価格で操作性に優れた解析装置の登場が強く求められていた。

こうした要求に応えるのが、アンリツからこのほど発売された無線LAN測定ソフトウェアだ。

このソフトウェアを、同社のスペクトラムアナライザ「MS268xシリーズ」あるいはデジタル移動無線送信機テスタ「MS8608/09A」にインストールすることにより、5GHz帯を使用する無線LAN機器・デバイスの開発・製造において、変調解析・スペクトラム解析・パワー測定

などを1台でスピーディに行うことができる。

## ●特徴その1 高速解析・高精度測定

5GHz帯の無線LAN機器・デバイスの送信特性試験が可能。加えて、高性能DSP搭載、高速A/Dサンプリング(64MHz)により高速・高精度な測定を実現。変調精度測定は1秒以下での測定を完了。

## ●特徴その2 充実した測定機能

・各サブキャリアごとの変調精度 (RMS およびPeak)

・全キャリアの変調精度EVM (RMS およびPeak)

・コンスタレーションマップ表示

・位相誤差、振幅誤差の時間変動

・周波数誤差

・スペクトラムマスク

・占有周波数帯幅

・隣接チャンネル漏洩電力

・帯域外漏洩電力

・スプリアス発射強度 (5倍

高調波まで、本体に30GHz

スペクトラムアナライザ使用

時)



無線LAN測定ソフトウェアをインストールしたスペクトラムアナライザ

・CCDF (Complementary Cumulative Distribution Function: 相補累積分布関数)

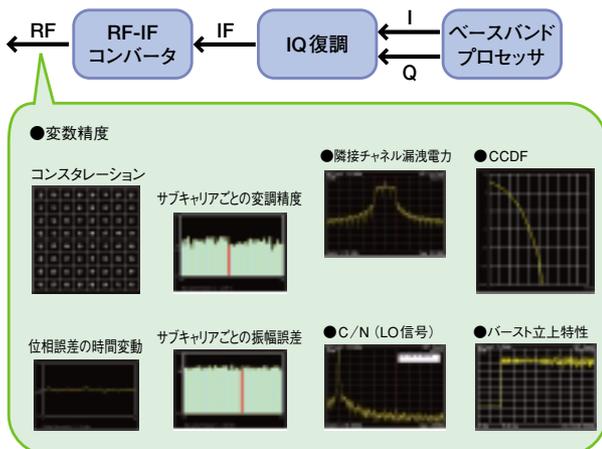
## ●特徴その3 30GHzまでの高調波測定

スペクトラムアナライザ (MS268xシリーズ) には、上限周波数30GHzまでカバーするタイプを用意しており、5倍高調波まで測定可能だ。このタイプを選択すればOFDM測定とパワー測定、最大30GHzまでの広帯域、広ダイナミックレンジのRF信号のスペクトラム測定が1台で可能となる。

本ソリューションによって、無線LANの機器開発ベンダーやデバイス開発部門は、開発にかかるコストの低減に加え、開発期間の短縮も実現できる。W-CDMAやGSMなど、他の無線システムの評価機能の同時装備も可能だ。急速に広がる高速ワイヤレス通信ニーズに応えられる競争力の高い製品をいち早く市場に投入することが可能になる。

## 送信機評価例

### RFでの評価方法



## お問い合わせ先

Anritsu

Discover What's Possible™

アンリツ株式会社 計測サポートセンター

TEL: 0120-827-221 FAX: 0120-542-425

広告製品の  
詳細情報サイト: <http://www.tm.anritsu.co.jp/wlan>